

栄光への軌跡

～進め!ビクトリーロード～

第三部

国体県予選 2 p

国体ブロック大会 4 p

南部九州総体 2019 8 P

新幹部発表 24p

国体県予選

晴天の朝、予定より一時間遅れで開始するレースを見に出かけた。土手上はOBとOB保護者が集まってきた。いつもの様に保護者よりコーヒーが配られ10時スタートのシングルレースを待っていた。と、暗雲にわかには掻き曇り～突然の強い雨が降って来た。日傘が雨傘に変身！しかし、一向に止む気配はなく保護者に促されるまま関西のテントに避難した。遠くの空に雲の切れ間は見えてもしばらく降り続いた。

やっと雨が上がると、また土手上に移動した。足元が凄いいことになっていたし、レースが良く見える場所がやっぱり良いです。それでも雨のせいでびしょ濡れになったパウボーイが軽トラで運ばれ交代になる様子。審判も濡れたけど代わりはいないよね。一時間近く遅れてやっと始まった。

男子シングル

2.片岡（関西高校B）…2位

3.渡邊（関西高校A）…3位

4.（県立高校選抜）

一坪君は操山の有松君と組んでダブルに出ている。緑陽の選手は中国大会で一坪君と組んでいた子だ。その子にさえ負けてしまった。3年の渡邊はこの試合が最後となるようで、涙を流しながらの挨拶をした。「試合で勝って恩返しをする事は出来ませんでした、これからもサポートで少しでも恩返しをしていきたい。」と語った。ああ、そんな季節なんだなあ。

男子ダブル

2.県立高校選抜C

3.関西高校（森、杉野）…2位

4.県立高校選抜A

5.県立高校選抜B

1位と3秒差

練習でやってきた前半から思い切ってチャレンジすることはできて400m過ぎたくらいはトップだったんですが課題だった後半で失速してしまいました **渡邊 談**

一坪・有松君の県立選抜がぶっちぎりで勝利を手にした。分かっていたとはいえ、彼らと一緒に練習する時間も少なく、身長・リーチの違いというハンディがある。もう少し何とかならなかったんかあ??

男子クォドルプル

2.関西高校C（浅野、山脇、吉田、高橋、吉岡）

3.関西高校A（小橋、石川、神馬、山本、小川）…1位

4.県立高校選抜

5.関西高校B（山谷、岩村、坂井、江田、内田）

2位と13秒差

Aクルーのブッチギリは分かっていたからBとCの戦いが見物だった。1・2年混合クルーはどっちが勝つのか?腹切りせずにフィニッシュ出来るか?県立選抜に勝てるか?と見守った。

成年男子付きフォア

私の個人の都合でタイムアウト!! レースを見ずに帰宅した。結果はブロック大会に向けて新聞にも出ず、掲示板にもタイムは出ていなかった。後で知ったが、成年も無事ブロック大会へ進めたそうです。良かった良かった。後は、さくらおろちの水問題のみです。

森川先生のお言葉

大会が終わり13時頃から撤収作業が開始。昨日は前日の大雨のため川の水位が高いし、風もあり流れも早かったため、いつも以上に大変でした。で、川の撤収作業が終わったのが15時半。艇庫で洗浄等の片付けが終わろうとした16時前、私は汚れた服を着替えようとしていました。すると、うちの某1年生が足に重たい物を落としてしまい、大怪我をしてしまったという連絡が……。私は急遽泥まみれのままその部員を車に乗せ、救急病院へ。レース結果に精神的に疲れ、更に撤収作業で肉体的に疲れ、更にこの部員の怪我。まさにトリプルパンチでした。

あらためまして昨日の国体県予選では熱い応援ありがとうございました。急に雨が降ったり・・・川が増水したりするなど大変だったのではないのでしょうか？大会では少年男子の部、シングル・ダブル・クオッド全種目において「関西高校 vs. 県立高校選抜」でした。そう、県立高校と全面对決となりました。で、結果は周知のとおり、クオッドのみが中国ブロックへ駒を進めました。県立選抜がダブル・シングルの小艇メインで挑んでくるのは解っていましたが、なぜ負けたか？はっきり言って県立高校選抜の勝利への執念とエルゴの差です。過日放映された「スポeもん」でも言いましたが、エルゴタイムは正直です。エルゴタイムは自分の自信にもなるのです。エルゴの練習は苦しい！はたして自分たちはそのエルゴから逃げていなかったか？勝ちたいけど苦しいことはしたくない！・・・では話になりません。やはり勝負は勝たないと意味がありません。関西高校は負けたらあかんのじゃ～～～！

過日の国体県予選の備忘録として部員たちの手記を紹介したいと思います。

《杉野太星記》（前文省略）水上に出たら雨が降ってきて一度陸に戻った。その時、集中力を切らさないようミーティングをしたり、ユル体操をしたりした。レースはスタートで失敗してしまい、そのまま前に出られず2位でゴールした。日頃から「これで勝てるのか？」、もっと上もっと上を求めているなかったのだ。インターハイは、クオッドで出場予定なので必ず一番を獲る。雨の中でも応援して下さった保護者に恩返しする。

《石川航汰記》（前文省略）水上アップは艇がしっかり走っていたが、途中の突然の雨で一時中断して陸に上がった。その時にユル体操はしていたが、集中力が欠けていたと思う。勝つクルーとの差はそこだと思った。また、自分たちクオッドは難なく勝てたが、ダブル・シングルは負けてしまった。もし自分がダブルで出場していたら勝てたか？そこまで考えていく。7月の国体中国ブロック大会は過日の中国大会の何倍もレベルの高いレースなのでもっとレベルアップしていく。《石川航汰記》

果たしてうちの部員たちに『危機感』があったのか？ 私が思うに・・・このチームは、特にクオドルーは、5月の朝日レガッタ以降、これが欠如していたように思われます。「岡山では負けることはない！」と安直に考えていたのでは？！ 石川が記述しているように自分たちがダブルで出場していたら勝てたか？と自問自答して欲しい。(なあ、〇〇君?) また、杉野が書いているように、皆が常日頃から練習で「これでライバルに勝てるのか？」とあって練習に取り組んでいたのだろうか？ ただの自己満足の練習をしていたのでは?? やはり『危機感』が無ければ妥協が生まれ、衰退が始まるのです。 そう、これが過去のチームにあって、現チームにないところなのです。 ライバルは常に進化していることを忘れないで欲しい！

国体中国ブロック大会

三連休のど真ん中7月14日に「さくらおろち湖」で行われた。私は行ってません。家の都合で今、遠出が出来ないので。結果は勝つだろうと掲示板を覗くことも無く忙しくしておりましたが、先生のFBの投稿で知りました。わざわざ電話で知らせてくれる審判の方もいらっしゃいました。ありがたい事です。

1レースの応援だけの為に出席されたOB保護者には頭が下がります。もっとも成年で出場している保護者は別ですが…。

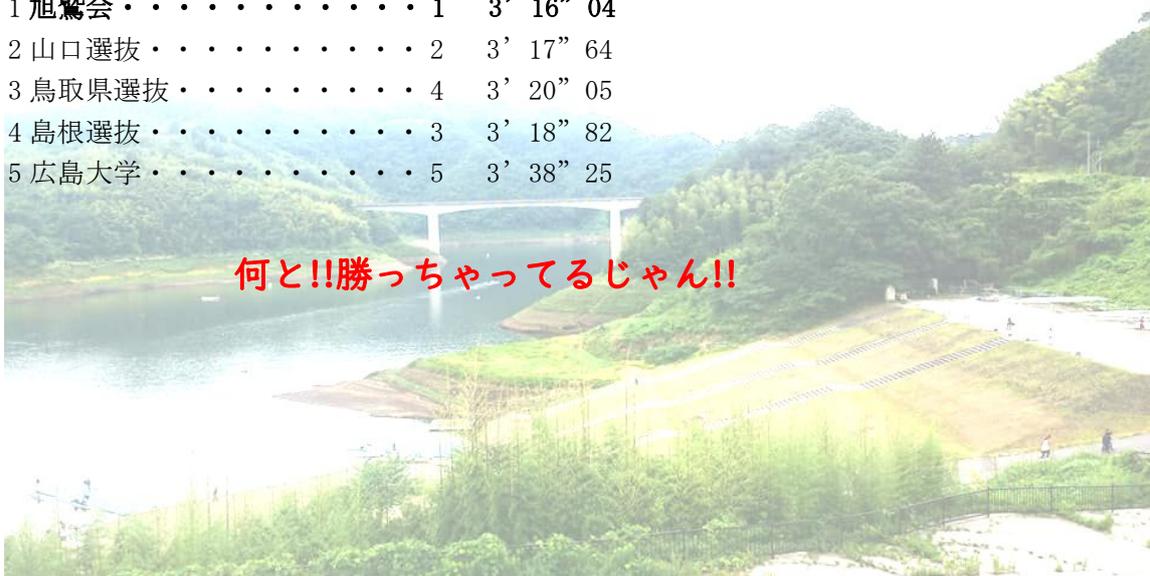
少年男子クオドルプル決勝

1 岡山選抜	1	3'09"62
2 島根選抜	2	3'15"06
3 広島工業大学高等学校	4	3'24"45
4 山口選抜	5	3'24"62
5 鳥取選抜	3	3'17"15

10秒切っとるぞ!!やるなあ

成年男子舵手付きフォア

1 旭鷲会	1	3' 16" 04
2 山口選抜	2	3' 17" 64
3 鳥取県選抜	4	3' 20" 05
4 島根選抜	3	3' 18" 82
5 広島大学	5	3' 38" 25



森川先生のお言葉

熱い応援ありがとうございました。 島根県開催だったにもかかわらず、カンゼイ TEAMの応援が一番だったと思われます。 皆様の大声援が湖面いっぱい響き渡っていました。 おかげさまで、3年連続？回目の優勝を収め、今秋の茨城国体へ駒を進めることが出来ました。 本当にありがとうございました。

レース前に彼らに指示したこと。 ゴチャゴチャ手段を考えずに、「無心」でアタックせえ！ スピード足しまくりや！ 1000m、イキ切れ！ 緩めるな！ そのために(秘)や。 やってきたことをやろうぜ！

ちなみに「2位以下に10秒以上離す」というのは、前日の公式練習の前に撤回していました。 決して選手たちを甘えさせたわけではありません。 これは、昨年のような危ないレースをしたくなかった！ or 6月の中国大会のような甘い大会ではない！ということを選択たちに理解させるために、平日頃の練習時からこのように言って選手たちを鼓舞してきたのです。(実際、どれも厳しいレースでした！)

で、レースは前半から飛び出し、500で一艇身、後半は2位以下に約6秒の差を付けてFinish。 完勝といえば完勝ですが、やはり後半になると加速が緩むのです。 これはうちの弱点です。(実際、エルゴでもそれが如実に表れています！) やはり、「勝つクルー」は、選抜・朝日Rで経験したように、前半でズド〜〜と出て、後半になって更にギアが上がっていくのです。 500mレースが一度に2回あるような感じですか。 そう、やっぱり「イキ切る」のです。 このようなことをインプットして、最大の目標である8月のインハイへ向けてStep-Upしていかなければなりません。

また、私は、うちのレース以上に感動したレースがありました。 それは、成年男子・舵付きフォア、我々がOB「旭鷲会」が見事に1位で勝ち上がり、これまた国体出場権を勝ち得たことです。 これには天晴れでした！ 教え子たちと一緒に国体へ行けることを心より嬉しく思います。

彼らは他県の大学現役オールスタークルーとは違い、年齢層も高く(特にI上とN崎とM成)、ポテンシャルは劣るかもしれませんが、練習量が随一だったと思います。 まさにオッサンパワー炸裂です。 この練習量によって非常にまとまりのいいクルーに仕上がっていました。 今回のレース、彼らの勝負に対しての執念で勝ったと言っても過言ではないでしょうか？ 土日は早朝4時頃から練習し、ウィークデーは仕事があるため夕方6時頃から夜9時まで猛練習をしていました。 時々、彼らの練習を見掛けることがありましたが、彼らの勝利への執念には、頭の下がる思いでした。 そういったことで私は、彼らの今回の勝利には大変感動しました。 レース後、私は教え子と握手を交わしながら「感動をありがとう」と伝えました。 近々、彼らと一緒にTEAMカンゼイの今大会の打ち上げ&国体決起会をしなければなりません。(N崎、段取りしなさい。 BOSSが待ってます！笑)

ん・・・、うちの部員たちもこのような執念があるのだろうか？ この執念、見習わなければなりません！ やはり・・・『思えば叶う』のです。



レースの動画を見ました



OBのレースは凄かった

国体出場決定!おめでとう!

8月8日、浜寺に行く。2日目は清風高校とトライアル。インハイ直前合宿。



↑
清風高校の西村先生





感動は無限大

南部九州総体 2019

まずは、出発前の意気込みからご覧ください。

舵手付きクォドルブルクルー

2年の小橋です。自分達はインターハイまでにやれることはしっかりやることができあとは自分達を信じて優勝するだけなのでビビらず日本一の行動をしてその中で関西オーラをビンビンに出して他を圧倒していきます。応援よろしくお願いします。

3年の石川です。いよいよ自分達が日本一になる時が来ました。日本一の応援よろしくお願いします。自分達は今までやってきたことを徹底してやって、今まで優勝するその一瞬の為に努力してきたので、優勝して、カッコいい先輩になってきます。応援よろしくお願いします。

三年の神馬です。

自分たちが関西高校として出る最後のレースです。やっぱり関西高校が一番なんだという証明をしてきます！

今までの超エライ練習はこのインターハイで優勝するためにやってきたのです。勝たないと意味もないし、面白くもありません。だから絶対に優勝してきます。

日本一になって、今度は銀ではなく金のメダルを勝ち取ってみせますので応援よろしくお願いします！



3年の山本卓哉です。とうとう自分達が日本一になる時が来ました。今までしてきた事全て出し切ります。この夏に勝った者が本当の日本一。勝つ一瞬の為に今までやって来ました。それと笑って行きたいと思います。

自信 勇気 狂気を持って生きた証を求めて.....カッコイイ男になって帰って来ます！

2年の杉野です。ブロック大会が終わった次の日から今日までインターハイで優勝するためだけに練習をしてきました。自分はクォドの一番後ろに乗っています。ゴールした時1番

注目されるポジションなので1番最初にゴールテープを切ってきます。応援よろしくお願
いします。

ダブルスカルクルー



3年の森です。
自分達は今までの大会で[優勝]と言
うものをとったことがありません、特
に自分にとってはこれが最後のレー
スになるので関西高校としての最後
のレースで[優勝]という2文字をもつて帰って来ます！応援よろしくお願
いします！



2年の小川です。
台風接近のため公式練習が1日無くなったのですが、そんなの
僕達には関係ありません！全てにおいて日本一の行動をして、
日本一のアップをして、やってきた事を徹底していき何がなん
でも日本一になってきます！そして、あ、ほ、かでやって行き
ます！応援よろしくお願いします

補漕

3年の渡邊です。自分は補漕としていくんで、日本一の補漕に
なってメンバーが最高のコンディションで挑めるようにしてい
きます。



2年の吉岡です。自分は補漕として
行くことになりました、しっかりと
みんなをサポートしていきます。ま
た自分はインターハイに行くのが初めてなので色々と学んでい
きたいと思います。



ボート
菊池市

U19 (19歳未満) 日本代表に
注目が集まる。シングルスカル
の女子は昨年のインターハイと
今春の選抜大会でインターハイと
だった都府県(東京・文京学院
大女)、男子は選抜大会3位の
鈴木正希(静岡・浜松大平台)
らに期待がかかる。
ダブルスカルがかかる。
会優勝の大村(長崎)、美方(福
井)、浜松湖南(静岡)など激
戦。男子も小見川(千葉)、浜
松大平台など優勝を狙えるクル
ーが多い。かじ付き4人スカル
では、女子は圧倒的な強さを誇
る美方が2年連続の春夏連覇を
狙う。男子は選抜大会2位の関
西(岡山)や瀬田工(滋賀)が、
春との2冠を狙う加茂(岐阜)
に挑む。(ボート専門部広報委
員長・丸山亮太)

ホテルのメシが不味いんじやあ

男子舵手つきクォドルプル 予選3組

菊池市斑蛇口湖ボート場

おっ!今年は全員の名前入りだ!!

08月17日 11:20

順位	所属	メンバー	記録	備考
1	関西(岡山)	小橋・石川・神馬・山本・杉野	3分23秒74	準々決勝へ
2	浜松湖南(静岡)	北本・杉森・氏原・日置・鈴木	3分23秒92	準々決勝へ
3	津幡(石川)	中西・若崎・生瀬・勝田・安田	3分30秒31	準々決勝へ
4	会津(福島)	渡部(涼)・氏田・渡部(陽) ウィルソン・落合	3分41秒39	敗者復活戦へ
5	妻(宮崎)	佐村・小野・中武・杉尾・黒木	3分50秒66	敗者復活戦へ

男子ダブルスカル 予選6組

菊池市斑蛇口湖ボート場

08月17日 13:09

順位	所属	メンバー	記録	備考
1	関西(岡山)	森・小川	3分35秒17	準々決勝へ
2	豊田北(愛知)	佐脇・佐々木	3分35秒37	準々決勝へ
3	長崎明誠(長崎)	松本・鼓	3分38秒44	準々決勝へ
4	田名部(青森)	木村・山崎	3分39秒78	敗者復活戦へ
5	吉田(山梨)	平本・萱沼	3分40秒05	敗者復活戦へ

森川先生のお言葉

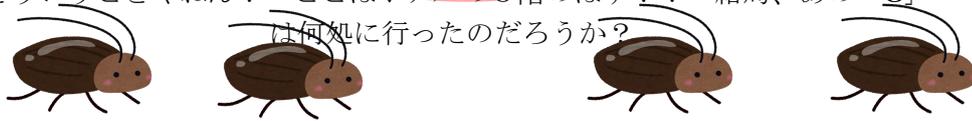
本日、予選。保護者お皆様の大声援のおかげクォド・ダブル共に何とか1位で予選通過。本当にありがとうございました。

ダブルはよく頑張りました！前半、長崎・愛知で出られるも、後半たれることなく、その2艇を差し切り1位で通過。アントニオ竜馬のメインエンジンが機能してくれました。まあ、彼らにとって次の準々決勝が正念場です。(去年はここで・・・?!)

クォドルプル・・・これも1位で通過したものの(500のラップは2位)、ストレスの溜まるレースでした。おそらく私以上に選手たちが納得いかなかったのではないのでしょうか？全然うちらしいレースが出来ませんでした。私は帰宿後のミーティングで選手たちにこう伝えました。「やってきたことが出来なかった！もっと〇〇〇して△△△やって□□□しないと・・・。それに・・・過去に勝ってる相手だからといって舐めとったらあかんでえ！過去に勝ってるからといって今回勝てる保証など何一つない！選抜準優勝なんてどうでもええんじゃ！過去は過去、今しか生きれんのか。もっと挑戦せええ～～！挑戦しない王者は

おらんわ。まずは自分の技術・戦術・メンタルを十分反省せえ〜！後悔は過去を変えようとする事。でも、過去は決して変えれんものじゃ。反省とは未来を変えることや。勝ちたかったらどうすべきか？反省して自分の未来を変えてみい〜！次を期待してるでえ〜。おめえら、こんなもんじゃないはず。」

《おまけ》今朝、部屋を出ようとしたら大事件発生！私の鞆を横に移動した瞬間、黒い物体がカサカサと……。そう、大きな「G」が出現したのです。私は悲鳴を上げてしまいました。泣きそうになりました。どういふことやねん？ここはホテルの8階のはず？！結局、あの「G」は何処に行ったのだろうか？



敗者復活の日は何するのかな？

菊池にいるなら此処は外せません！ 菊池渓谷!! 空気は綺麗で涼しくて、心も洗われるような清涼感。子供たちも堪能したようです。渓谷に??ヤマメの塩焼きに？



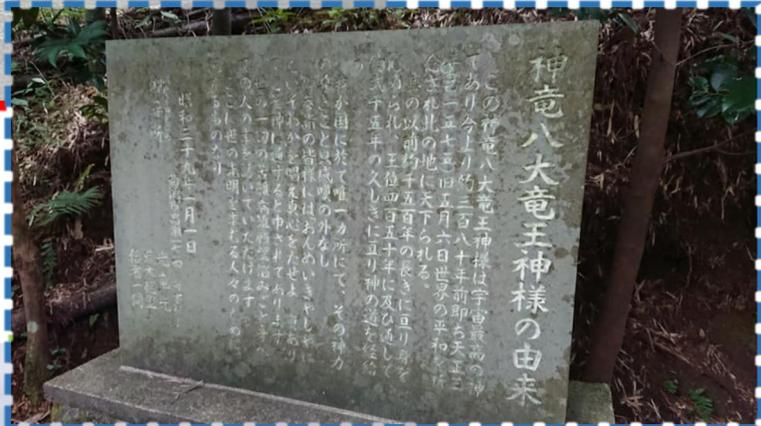
準々決勝突破するぞ!!



さて、保護者は大人の夏休み。観光は・・・



神頼みは欠かせない



草千里かな？

楽しんでる楽しんでる。これは勝ち上がった子供達からのプレゼントやでえええ



飲み会は必須

男子ダブルスカル準々決勝7組

順位	選手名	学校名 (都道府県)	記録	備考
01	丹下 永田	松江東 (島根県)	3分23秒29	準決勝へ
02	山本 吉沢	浜松大平台 (静岡県)	3分24秒43	準決勝へ
03	森 小川	関西 (岡山県)	3分25秒45	
04	松本 鼓	長崎明誠 (長崎県)	3分31秒15	

男子クォドルプル準々決勝7組

順位	選手名	学校名 (都道府県)	記録	備考
01	小橋 石川 神馬 山本 杉野	関西 (岡山県)	3分10秒26	準決勝へ
02	西村 永木 田辺 落谷 武藤	美方 (福井県)	3分11秒01	準決勝へ
03	佐々木(翔) 佐藤 後藤 白井 佐々木(剣)	本荘 (秋田県)	3分16秒19	
04	藤原 木藪 片野 武石 藤井	日田三隈 (大分県)	3分16秒49	

森川先生のお言葉

本日、準々決勝。 熱き応援ありがとうございました。

レース前、選手を栈橋から送り出し、選手たちが水上で校歌を歌った後、対岸の応援席から大声援が……。 「ファイト～～～カンゼイ！」 私はそれを聞いた瞬間、涙が出そうになりました。 遠路熊本まで沢山の関西サポーターが駆けつけてくれているのです。 もちろん、この声援は水上の選手たちにも熱く響いたはずです。

ダブルスカル、健闘虚しく第3位、2位とたった1秒差で落選でした。 詳しいことは後ほど書きますが、あの差は何だったのか？を考え、この結果を今後活かして欲しいです。(そうでないと全く無意味です!) まさに「努力は一瞬。 後悔は一生。」だったかもしれません。

クォドルプル、このレースはうちにとって最初の山場だったかもしれません。 あのレース、準優勝と同じレベルだったと言っても過言ではありません。 「イキ切れ! イキまくれ!」 彼らは私の指示したとおりにやってくれました。 ここにきてやっとうちらしいレースが出来たと思います。 しかし、まだ42分の16になったにすぎません。 明日は準決勝。 更なるハードルが待ってます。 昼からの決勝のことなど考えずに目の前のハードルを確実にクリアして欲しく思います。 山は麓からです。



最終日。泣いても笑っても今日が最後です。

準決勝3組

順位	選手名	学校名（都道府県）	記録	備考
01	小橋 石川 神馬 山本 杉野	関西（岡山県）	3分12秒80	決勝へ
02	瀬戸口 松井 大久保 堀 吉福	猿投農林（愛知県）	3分12秒88	5-8位決定戦
03	古市 城戸 藤山 柳田 佐貫	川内商工（鹿児島県）	3分13秒15	
04	油小路 柴田 黒谷 山口 坂田	京都海洋（京都府）	3分14秒90	



0.08秒差とは!!

男子 舵手つきクォドルプル 決勝

順位	選手名	学校名 (都道府県)	記録	備考
01	三嶋 七野 水野 柘植 山岡	加茂 (岐阜県)	3 分 09 秒 20	初優勝
02	新 平野 和田 遠矢 杉本	熊本学付 (熊本県)	3 分 09 秒 42	
03	小橋 石川 神馬 山本 杉野	関西 (岡山県)	3 分 11 秒 91	
04	加藤 山本 白石 今井 石原	浦和商 (埼玉県)	3 分 12 秒 26	

4×+

3年の山本卓哉です。

結果は3位でした。まず感じたことは今年の熊本インターハイはものすごくレベルが高かったです。

どこもかなりレベルアップしていました。その中で自分達は...?でしたが準決勝の0.08秒の差で決勝に行けたのは今までサポートして下さった方、

保護者や仲間の応援の思いの0.08秒でした。そして迎えた決勝は3番でゴールしました。そこで改めて夏の怖さを実感しました。夏勝ったものが本当の日本一という事を思い知らされました。

ですがこの3位銅メダルは関西 team 全員出とったものです。それをたまたま自分達が代表して受け取っただけの事です。また、1位はこんなにあるんかい！と言うぐらい優勝旗や優勝カップがありました。現役保護者、OB 保護者、1年生の吉田、森、横田、2年生の山谷、こんな遠い熊本まで応援に来てくださって本当に有難うございました。声援がどこよりもよく聞こえて迫力がありました！本当に有難うございました。大会運営者の方、補助員の方、オール、艇、全てに感謝です。

3年生はこれで関西高校として関西ロースを着てレースするのは無くなりました。ありがとう関西ロース。

そうなのよ・・・優勝すると凄いのよ。指くわえて見るしかないのよねえ

3年の石川です。自分達クォドは3位という結果でした。準決勝では0.08秒差で決勝に上がれることになり、色んな人の思いや、神様がこんな所で負けたらアカンと後押しをしてくれたのかもしれない。なので決勝は自分達のゾーンに入って楽しんでいこうと話しました。出艇する時に保護者の方から校歌が聞こえて、勇気とアドレナリンが大量に出てきました。覚悟を決めて死んでもええくらいの気持ちでいきました。ステッキに付けると、いつもバスで聞いている Queen の曲が聞こえて、We are the Champion と歌って勝つイメージは出来ていました。その後に神の声が聞こえて先生の方までいったろっとみんな思ったとおもいます。レースはスタートも出られて700位まで出られていて、こんなザマは絶対嫌だと思い全員で叫んで狂って、むちゃ漕ぎだったが上げて行って何とか3位に入ることが出来ました。これは自分達だけで取ったのではなく保護者の応援や色々な人のお陰で取った3位なので勘違いせずに次があるので繋げていきます。次こそは絶対に優勝します。ほんとにレベルが高い大会でした、春とは比べ物にならないくらいというのを感じました。自分達ももっとレベルアップしないと勝てないのでゴイゴイやっています。

三年の神馬です。

今日は準決勝と決勝がありました。自分の全てを出し切るつもりで準決勝から自爆のつもりでアタックしていきました。準決勝をコンマ差で突破して、決勝へと進むことができました。本当にトップボール数個分の差です。

決勝は熊学と加茂と浦和とのレースになりました。勝とうとせずに、笑って行って最後のレースを楽しもうと出艇前にクルーで話していきました。

結果は3位でした。熊学と加茂に負けてしまいました。レースが終わった瞬間、全身がもの凄い脱力感で覆われて、体の感覚が無くなったような感じでした。隣の熊学が泣いているのを見ながら、選抜の時と違って自分が泣いていないのを何故だろう？とレース後の良く回らない頭でぼんやりと考えていました。でも、レース後に栈橋に艇を進めている時に「めっちゃ悔しい」と声に出して言って思わず涙が出そうになりました。自分が負けたのだという悔しさが、声に出すと何倍にもなりました。

この銅メダルは自分達の手だけでは取ることは決して出来なかったと思います。様々な人の支えがあって、この銅メダルが取れました。メダルの色は金ではありませんが、それが今の自分の実力なのだと受け止めていきます。

臥薪嘗胆という言葉があります。そして、三度目の正直という言葉もあります。次の国体で今度こそ頂点を取るために一番エラくて苦しい事をやって行って、銀でも銅でもない金色のメダルを取ってみせます。

残念ながら国体にはメダルが無いのよ。賞状1枚くれるだけなんよ。

2年の杉野です。今日はインターハイ最終日で準決勝と決勝がありました。準決勝では0.08で決勝に上がることができ、保護者の皆さんの後押しだと思います。決勝では今までやってきたことを出し切り最後は笑おうと話し合っただけでレースにのぞみました。結果は3位で令和元年度のインターハイを優勝することが出来ませんでした。この大会で先輩達と関西のコースを着てレースに出るのは最後になり次は岡山選抜として出ます。いい結果ではなかったですが、今の自分達の実力とインターハイで優勝する難しさが分かりました。自分と小橋は2年生で来年があります。来年は今年優勝出来なかった分必ず優勝します。

来年は・・・その言葉覚えとくよ～!

2年の小橋です。

準決勝ではここを越えれば決勝という一番の山場で、なにがなんでも行ってやる、でも絶対に勝とうとしないというのを頭に入れて試合に臨みました。試合が始まり300で少し出て、でも猿投高校がすぐに上げてきて900ぐらいまで出たり出られたりの繰り返しでコンマ差で勝つことができ、上がってから猿投高校の人に加茂高校は早いけど絶対に勝ってくれと言われてその時に自分だったらそんなことを言えていただろうか？と思いました。すごいなと思ったのと同時にこれはやるしかないだろと、とてもやる気が上がりました。

そして決勝、ここまできたらあとはいききるだけ！後悔のないレースを、笑っていこう！、と話して行きました。レースが始まりスタートは今まででかなりいいスタートを切ることができ400では最下位だったが4人なら行けると信じて500メートルスパートの博打をかけていきスピードが上がったと思てさーいくぞと思ったら800ぐらいで自分の腕が痺れて

きてラダー操作ができなくなりスピードが落ちてしまい3位でゴールしました、終わってから自分はまともにコックスの仕事もできないのかと、3年生が関西コースを着てレースする最後の日だったのに勝つことができなかったことにとっても自分を責めました。でも、これですっと自分を責め続けても何にも変わらないし意味がないと思いました。なので国体まで残り少ない時間でもっとコックスについて改めて考え絶対に挽回します。応援してくださった皆さん、また、金メダルを見る時が遠くなりましたが、待っていてください関西は自分はこんなものじゃないことを証明し必ずメダルを見して首にかけてあげます

2×

3年の森です。

保護者の声援、校歌自分達の何倍も大きな声に僕はとても感動しました。さすが日本一の応援をしてくれる関西高校の保護者です！

自分は大会3日目準々決勝で3位になりそこで終わってしまいました。自分はこの時悔しさと悲しさ、そして情けなさが溢れていました。小川をもっと上へ連れて行ってやれなかったことや今の自分なら行けるとどこか心の底で思っていたこと、今色々な[後悔]が残っています。

先生がいつも言っている[努力は一瞬][後悔は一生]このインターハイでの[後悔]は多分一生涯残ると思います。

この大会を通して感じたことはやはり春の選抜でちょっと勝ったからといって全国を甘く見すぎていた自分がいたということです。

選抜の時よりも自分達は進化したつもりでしたが全国にはもっと進化して来ているクルーばかりでした。やはり生半可な練習や気持ちでは勝てないと言うことがよくわかりました。自分の今までやっていた2年半はラスト3分25秒で終わってしまうんだなと思っていたらこのインターハイはどれだけ勝たなければいけなかったかがわかります。まだまだ自分の甘さ弱さいろんな事を感じれたインターハイになりました。そしてとても充実して楽しかった7日間でした。[優勝]という2文字は岡山県に持って帰れなかったですが、いろんな事を持って帰れると思

います。

重い重い優勝の2文字だよ

2年の小川です。

自分達ダブルスカルは、準々決勝敗退という結果になりました。今回のインターハイで感じた事、思ったことは、選抜大会と比べて夏の全国大会は桁違いにレベルが上がっていた事です。上位に入るクルーは前半からアクセルベタ踏みで行き後半も全く落とさないようなレース展開でした。自分もそんなレースをしたいと強くおもったので、そのためにはまずエルゴを上げることからしようと思いました。今回負けた原因の1つはエルゴの差なのでもっとタイムを上げで来年こそリベンジしたいです。

森川先生のお言葉

『2019 熊本インターハイ』では応援ありがとうございました。皆様の心暖まるご支援のおかげで、クオドルプルが第3位入賞となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

最終日(8月20日)準決勝3組、11時20分発艇。500で愛知に出られて2位、そこからジリジリと詰めて0.08秒差で1位でFinish。何とか決勝進出を決めました。(1位が決勝、2位が順位決) 0.08秒差、これはいったいどれくらいの差でしょうか? おそらくレーンプレート or バウボールの差では? 私は水上から上がってきた選手たちにこう言いました。「0.08秒差、いったいどれくらいの差か分かん! しかし、勝ち勝ちじゃ! これは応援保護者の念が押ししてくれたのかもしれん。神様が、『お前ら、こんなところで負けとったらあかん!』と言って、もう一度チャンスをくれとるんじゃ。」

その後、私は如何にして選手たちを休ませようかと考えました。準決勝は4組あり、前半の1組・2組は午前9時過ぎにレースがあり、決勝まで5時間以上時間のインターバルがあり休養十分。それに比べてうちは決勝まで2時間ちょっとしか休めないのです。混雑している艇庫内で休ませる訳にもいきません。私はすぐにシャトルバスに選手を乗せ、駐車場のマイクロバス(鬼火弾号)へ。バスのエアコンを掛け、選手たちはシートを倒して横になり約1時間ほど休んでいました。そして再びシャトルバスで会場に戻り決勝へ臨みました。(実際休めたのだろうか?)

決勝前、私は「これが3年生にとって関西のロースを着て勝負する最後のレースや! 思いきり楽しんでこい! やりたい事をやれ! 如意や! 受けたらあかん。安全装置解除して攻めまくれ!」と言って送り出しました。選手たちがリギング場から艇を担いで船台前の大階段を降りていると、対岸の関西サポーターから校歌の大合唱が……。その瞬間、私は感極まって、涙が溢れ出てきました。「俺らはいろんな人たちに支えられてるんだ!」たまりませんでした。

いよいよ決勝。岡山(関西)・熊本・岐阜・埼玉の4艇レース。ここで何とか春のリベンジをと思って挑んだのですが、スタートから岐阜・熊本に出られて500で4位(ビリ)、そこからブイバコがあったものの、最後の最後に埼玉を差しきり3位でゴール。春のリベンジ



ブログに出ていたので載せてみました。

インターハイ中のブログのタイトルは『関西バラバラ事件・・・そして伝説に！』は決勝で身体がバラバラになるまで漕いで漕いで漕ぎまくって、その結果「日本一」になろう！伝説になろう！という意味だったんですね

《石川・感想文》（前文省略）猿投農林高校が出てきて800mぐらいまでは出られていたが、最後のスパートで追い付いて、ゴールした瞬間はどっちが勝ったかが分からなくて放送を聞いて分かった。その時は本当に嬉しかった。色々な高校の人から「決勝、がんばれー」と励まされ、最後身体がバラバラになるまでいこうとクルーでワクワクしていった。決勝、出し切った結果が3位だった。（後文省略）

《クオドB 杉野・感想文》（前文省略）準決勝では出艇し校歌を歌った時、沢山の保護者の声が聞こえた。その声を聞き鳥肌が立った。沢山の人がボート部を気にしてくれて、応援に来て下さっていた。その人たちの分まで背負っているのだから必ず決勝に行こうと決めた。レースは最初から猿投農林に出られて700からは出たり出られなかったレースだった。ゴール後、他の皆はどっちが勝ったのか？分かっていなかったが、自分は必ず先にゴールしたと思っていた。アナウンス聞き、「1着、関西高校」と聞いた時はとても嬉しく、やっと日本一になる時が来たと思った。0.08秒で決勝に行くことが出来た。これは保護者の応援のおかげだと思う。決勝の出艇前に順位決定戦を終えた猿投農林の選手に声を掛けられた。「加茂は早いけど必ず勝ってくれ！」と言われ、パワーをもらった。蹴りだして校歌を歌っている時、関西ロースを着て先輩と一緒に校歌を歌うのも最後だと思うと、必ず優勝しようと思った。ステッキに着け今までお世話になった人を思い浮かべ、思いきり挑戦し、最後は笑おうと話した。スタートして最初から出られて700で浦和と並びゴールした。結果は3位だった。ゴールした時、今までやってきたことが3分11秒で終わったと思うと悲しかった。表彰式では素直に喜べなかった。3年生は最後のインターハイで、自分は2年生でもう一回ある。来年は今年の方まで背負って優勝する。それが自分の出来る3年生に対しての恩返しだと思う。（以下省略）

《クオド3神馬・感想文》（前文省略）ゴールした瞬間にはどっちが勝ったかが分からずに放送で着順が言われるのを待った。心臓が鷲掴みにされているかのような圧迫感と不安を感じた。着順を早く聞きたくもあり、聞きたくもなかった。放送で言われた「1着、関西高校」というのを聞いてようやく全身が重圧から開放された。その時は「これで決勝だ！」などとは思わずに、ただただ勝っていたことに安心して喜んだ。レース後、猿投農林の選手が「頑張ってくれ！」「加茂に勝ってくれ！」と自分たちに言ってくれた。その時、自分はこの人たちの分までやらなければならないのだと思った。負けた人たちの分まで・・・なんて事は今まで思った事がなかった。選抜でも朝日レガッタでも中国大会でもだ。自分の事で必死になってい

て、そんな事を思った事がなかった。インターハイでもそれは同じはずだった。それなのに…こいつらの分までやってやる！と強く思った。その時は何とも思わなかったが、今考えると何で？と思う。多分、このインターハイで成長していったのだと思った。先生が大会期間中も成長すると言っていたが、これの事なのか？！と思う。この成長こそが、今回のインターハイでの一番の収穫だと自分は確信している。（以下省略）

《クオド2・山本卓哉》インターハイ、応援ありがとうございました。今回のインターハイで感じた事は、レベルの高さが一番でした。春の選抜で見なかったクルーがいきなり出てきたり、高タイムをバンバン出していました。先生が言っていた、夏が本当の勝負で夏に勝った者が本当の日本一だという事や、夏の一番は簡単ではなく、過去の先輩方は先生が「練習を止めてくれ！」と言うまでやっていたというのが今ようやく解りました。普通の練習では勝てない！、人と違う事・新しい事をしなければ絶対に勝てない！とあらためて感じた。また、インターハイ期間中にチームのまとまりが大きく欠けてしまい、とても勝てる状態ではありませんでした。森川先生に助けてもらいとでも情けなかった。その時にチームは主将で決まるという言葉にゾッとしました。そこから緊急ミーティングもあり、少しはまとまりを取り戻しました。本気の腹を割ったミーティングが遅すぎた事がここで大きな穴となってしまったのです。そして準々決勝を通過し、準決勝はわずか0.08秒で逃げ切り、何とか決勝に行けた。（中文省略）レースは3位だった。終わった後、何も考えられなかった。自分がチームの癌だったのか？と自分を責めたが、責めたところで何も変わらない。そこで自分が腐って暗くなったらそこまでのチームになってしまう。今ここに居られてボートができ、3位になれたのは色々な方々のおかげだ。（中文省略）これからは『主将力』を考えてやっていこうと思います。



《ダブルS小川・感想文》（前文省略）今回の大会で感じた事・学んだ事は、春の全国と夏の全国ではレベルが違い、どのクルーもとても進化していた事、自分たちは春にちょっと勝ったからといって心の何処かに油断していた事、中途半端な気持ちなんかでは絶対に勝てないという事も身を持って感じました。今回は優勝出来なかったが、この大会で感じた事、学んだ事を必ず今後に活かして、同じ失敗をしないようにします。また、全国で勝つためには、まずエルゴタイムを上げる必要があるのもっとタイムを上げていきます。（以下省略）

《ダブルB・森竜馬》（前文省略）準々決勝は、行動の面で不安の「不」が付いたのかもしれない。ウォームアップの時間は30分以上もあったのに…（中文省略）……

レース展開は悪くなかったが、春の選抜で負けた浜松大平台、中国大会で敗れた松江東に対して何処かに不安な気持ちもあったのかもしれない。ここでは予選で出来なかった0～300を獲りにいく、これは出来ていたが、それは相手も同じことだった。自分たちは出られていたのでラスト350辺りでスパートを掛けたが、他艇も上げてきた。やはりここで鍵となったのが、先生が平日頃言っていた「エルゴの差」だった。最後までどうしても上がらないのが自分達、しかし相手は苦しいところで更に上げてくる。やはりエルゴを上げないといけないと思った。

今回、自分達にとってラストのインターハイだった。自分は、こんな形で終わるのはとても悔しい。この結果は、一生心の中に残ると思った。しかし、まだボート人生が終わったわけではないので、次の目標に向けてやっていく。



新幹部発表

キャプテン	杉野 太星
副キャプテン・クルー長	小川 大貴
副キャプテン・統率	片岡 榛人
副キャプテン・主務	小橋 冬唯
主務のサポート	山谷 健太
	浅野 主真

幹部発表があると夏が終わったと感じる。国体が終わると3年生はそれぞれの道を進み始め、新しいチームが動き始める。副キャプテンが3人もいる。・・・??何でだ?? 片岡と浅野の名前が読めない!小橋はフユタダと読んでいいのかな? キラキラネームが無さそうなのでホッとするオバチャンなのでした。

マンボで焼き肉食ったり、先生ン家でBBQしたりと楽しんでます。

全日本大学ボート選手権大会・・・インカレが9月5日から戸田で開催されました。戸田漕艇場は前回の東京オリンピックコースです。来年の東京オリンピックには規定に合わないため使用できません。戸田のコースサイドには関東の大学の艇庫がズラッと並んでいます。OB達は試合に出てたりサポートしてたりしていましたが・・・表彰台に立てた人がいなかったのが写真は省かせていただきます。高校3年間で親も第二の青春だ!!と思ってたら大学でボートを続けていると親の青春も続きます。私の感想は、日大が～負けてるう～仙台大強くなってらう～～でした。藻の大量発生で泣いたクルーがたくさんいたようです。そして、大学ボートいや、ボートを卒業するOBもいました。掲示板にコメントを寄せてくれました。

9月19日

本日、ジップアリーナ岡山で国体の決断壮行式がありました。壮行式と言えば……またまたやっちゃいました。ブチかましてきました。恒例の？英語での決意表明です。内容は……

「こんにちはー！ ボート競技です。気合いの言葉を述べます。God will let you be tempted beyond what you can bear. Believing is the best driving force.(神様は越えられない試練は与えない。信は力なり。) TEAM 岡山は、One Team。必ずやてっぺん獲ってきます。それは……《皆で》岡山ですから！！」



In ジップアリーナ岡山



第74回 国体壮行式

気合投稿

3年の山本卓哉です。明日から国体で茨城の方にいきます。

3年生にとっては、高校ラストレースです。色々な思いがありますが、今は勝つ事のみ。その為に謙虚にやります。そして、最後にキャプテンになり本物になってきます。旭川に残って色々、してくださる部員、清水さん、そして保護者の方にどう言った形で返すのか？それは優勝です。勝つ事全ての言葉の中にボートの事だけでなく、私生活だったり日頃の行いが入っていると思います。形だけのキャプテン、名だけのキャプテンはいない方がマシです。今までの自分はどうだったのか？それがこの国体で決まります。岡山県 ONE TEAM 関西 ONE TEAM、クルーも ONE、CREW でやっていきます。その為に私がもっとキャプテンを出していかないとダメなのです。想いを越えるものは無いと思います。最後は技術では無く気持ちの問題です。それを言葉に出していきます。

今こうして、国体に出られる事色々な人のおかげで今がある事を忘れずに過ごしていきます。また、私たちは色々な方の想いを背負っているのだと言うことも頭の中に入れて行動していきます。

1番取って帰ります。

3年の石川です。

明日から国体に向けて出発します。自分達3年生はこれが高校最後のレースです。悔いの残らないように全てを出し切ってやっていきます。それと、旭川に残ってくれる人や並べてくれた人の為にも優勝を旭川に持って帰りたいと思います。自分達の高校ボートがこれで決まるので有終の美で笑って終わりたいです。楽しさを履き違えず、謙虚にラストレース楽しんでいきます。

三年の神馬です。

自分たちは明日から国体へと向かいます。三年生である自分にとっては最後の試合です。今日は旭川でする現役最後の練習でした。自分が初めてボートに乗って川にドキドキしながら浮いていたのを思い出すと、随分と遠い所まで来たのだなと思います。夏休み前に、流石にそろそろ部活に入ろうと適当に選んだ部活でまさかこんな体験をしているとは夢にも思いませんでした。初めてボートに乗ったり、ヒザが外れて入院したり、先生のハルマゲドンを頂いたり、2000エルゴがめっちゃエラかったり、冬練で地獄を見たり、またまたヒザが外れたり、試合以外の日常での思い出さえも昨日のように思い出せます。絶対にいつかやめてやる！等と一年の時(特に冬練)で思っていたはずが、今や絶対に日本一を取ってやる！と心に決めているのですから人生わからないもんですね。

今までの自分の三年間の集大成をこの国体で見せつけてきます。神馬物語を最後の最後は優勝で飾ってみせます。支えてくれた様々な人に感謝をして、皆さまのお陰で優勝したと言えるようにしていきます。

3年の森です。

明後日から国体に向けて茨城に出発します。

自分は選手としては無く、補漕として行きます。自分の仕事は漕手のサポートです、選

手のみんなから「森のおかげで勝てた」と言わせるぐらい完璧なサポートをしていくつもりです。

3年生(石川、神馬、山本)の3人にとってはこれが高校生活最後のレースになります、ラスト10月7日の日にみんな笑顔で終わっているのが、今からでも想像出来ます。自分達はこの国体のためにできることは全てやりました、あとはクォードの5人が国体期間中にも進化し続け、どこまで伸ばせるかです。

旭川に残ってくれている1年生、2年生、渡邊、チームのためにも絶対に勝ってきます！岡山県の代表として、いろんな人の思いを背負ってテッペンを取ってきます！

2年の小橋です。今回自分はコックスとして国体に出場するんですけど、まず今の自分今のクルーが国体に出れるのは、毎日指導してくれている森川先生と清水さん、並べてくれた対校クォードとダブル、保護者の方、全ての人の支えと期待があったからです。これがなくして自分達は県内試合でも、中国大会でも勝つことはなかったです。そして今まで優勝をすることが出来ず結果で返すことができていません。この国体は結果で返せる最後の試合なので、優勝して今までの全ての恩を返せるよう全力で挑んできます。

お彼岸も過ぎ秋の訪れを感じ・・感じる事もある季節となりました。暑いですが。彼岸花が咲きススキが気持ちよさげに揺れ金木犀の香りが風に乗って香ってきますが、連日29℃と予報が出され夜も涼しさを感じません。台風がバンバン発生して日本に襲い掛かって来ます。今も18号が沖縄に近寄ってます。しかも、日本海にいるにも関わらず17号の時も関東に暴風を運んできます。千葉が大変な状態になりました。18号もどうなることやら・・・。茨城も北関東、雨風が心配です。

そんな中、国体に向けて岡山を出発しました。鬼火弾号で高速を乗り継いでではなく、こんな経路で行っちゃいました。

今回はフェリーで東京に向かってます。10時半頃に徳島港着。11時半出港。部員たちは嬉々としてます。東京・有明には明日の早朝6時頃到着予定です。





船旅は快適で〜す!!

午前11時20分、徳島港を出港。(with マイクロバス・鬼火弾号Ⅱ号) そして今日の午前5時過ぎに東京港入港。そして、そのまま一路茨城・潮来へ。潮来には6時半頃到着しました。なかなか快適な船旅でした。選手たちにとって初の船旅、どうだったでしょうか？